

熊本地震から10年



熊本地震から10年 今のオモイ。

本当の復興とは

地獄温泉 青風荘 代表取締役 河津誠さん



この10年で全国からさまざまな支援があり、インフラを中心に村の環境はとて多くなると思いましたが、震災後、私はグループ補助金を申請し、何とか震災前のように経営を立て直すことができました。そして、これまでみなで大切に守ってきたものを手放さないことも一つの復興だと考えます。村にとって、今どうするかが復興なのか、考え直してみませんか。

千年先へ記憶のバトンを繋ぐ

熊本地震 震災ミュージアムK10KU
総括ディレクター 久保亮之さん



村は復興の道を行ってまいりましたが、今後は阿蘇の自然と共に生き続けるためには、「あの経験を無駄にしない」という決意で過去の教訓を活かし、新たな備えを築く必要があります。私自身が特に学んだのは、平時からの近隣との繋がりが、すなわちコミュニティの力を維持し、手の届く距離の日常を充実させておくことが、命を守る力になるといえることです。

寂しいけれど前向きに

下宿 新栄荘 3代目大家 竹原伊都子さん



10年をまわると、「寂しい」の一言に尽きます。800人の東海大学の学生がいて、下宿の学生と一緒に過ごすのが当たり前だったあの日々を思い出すと、未だに涙が溢れます。下宿があった黒川地区は被害が大きく、学生以外の住民も減り続けており、子どもを持つ世帯も少ないので、寂しさを感じます。そんな中でもアイデアートカレッジ阿蘇が開校されると聞いたときは大変嬉し

熊本地震から学ぶ災害対策支援のあり方

公益社団法人 日本不動産鑑定士協会 理事 白藤達也
公益社団法人 熊本県不動産鑑定士協会 会長 津留伴一さん



発災当初、村と縁のあった協会が住家被害認定調査を支援に当たり、約5か月後には九州各県の不動産鑑定士が加わって被災家屋の調査を行いました。村民の皆さまの立会いのもと、丁寧な説明をしながら進め、罹災証明書の早期交付に貢献できたことは、私にとって貴重な経験です。被災者の願いは迅速な生活再建であり、そのためには適正な住家被害認定と罹

南阿蘇村の被災状況

前震

平成28年4月14日午後9時26分
マグニチュード6.5
最大震度7(村内では河陽地区で震度5弱)

本震

平成28年4月16日午前1時25分
マグニチュード7.3
最大震度7(村内では河陽地区で震度6強)

人的被害

● 死亡者……31名(関連死15名含む)
● 重傷者……31名
● 軽傷者……120名

建物被害

● 全壊……699世帯
● 半壊……989世帯
● 一部損壊……1,173世帯 ※2021年1月時点

その他

● ライン：村内全域で停電発生、最大3,761世帯(約80%で断水発生)
● 交通インフラ：JR豊肥本線・南阿蘇鉄道の不通
● 主要道路(国道57号・阿蘇大橋、長陽大橋、依山トンネル等)の寸断

避難所

● 最大避難者数 2,688人(4月16日)

村十県義援金

62,432,976円

全国自治体・関係機関からの派遣職員

延べ86,846人

全国からのボランティア

延べ22,375人 ※2016年10月時点での南阿蘇村社会福祉協議会調べ
2月末時点
※平成28年6月19日から6月25日に発生した豪雨被害を含む

熊本地震から10年を振り返って

あの熊本地震から10年の歳月が流れました。歩みを止めることなく、今日まで復興を支えてくださった村民の皆さまの不屈の精神に、心より敬意と感謝を申し上げます。共に支え合い、力を合わせてこの困難を乗り越えてこられたことを、大きな誇りに感じています。

振り返りますと、震災直後は村内のインフラが甚大な被害を受け、住宅や道路の復旧には多くの時間と労力を要しました。また、観光業の中断や経済の停滞など、幾多の苦難にも直面しました。しかし、村民の皆さまは決して希望を捨てることなく、手を取り合って進んでこられました。そして今、私たちは「創造的復興」を経て、新阿蘇大橋や南阿蘇鉄道といった強固な基盤を取り戻しました。これからは、この基盤の上に「持続可能な南阿蘇村」を築いていく、新たな挑戦のステージです。

今後の目標は、「村を強く、明るく、前へ」。私たちが震災の経験から改めてその大切さを学んだのが、「自助・共助・公助」の精神です。自らの命と生活を守る「自助」、困難な時にこそ光る地域の絆「共助」、そして皆様の歩みを全力で後押しする村の「公助」。これらをより深く結びつけ、災害に強く、助け合いの心があふれる地域社会を築いてまいります。

そして、その未来を担うのは「人」です。「次世代の人材育成」を最優先事項とし、若者が夢を描き、子育て世代が安心して暮らせる環境を整え、多様な挑戦を村全体で後押しします。若者が地域に根付き活躍することは、高齢者の人々の安心や、地域コミュニティの再構築にも大きく寄与するものです。

私たちの視線は、常に未来へと向けられています。この美しい南阿蘇村を、次なる輝きへと導いていく決意です。これからも村民の皆さまと共に、より良い未来を築くため、力強く前へ進み続けてまいります。

南阿蘇村長 太田吉浩



南阿蘇村復興への軌跡

平成28年4月14日、そして16日に発生した熊本地震は、観測史上初めて同一地域において震度7の揺れがわずか28時間の間に2度発生するという、未曾有の事態となりました。村内では最大震度6強を記録し、村民の生活は根底から覆されました。困難ともいふべき事態に直面し

ながらも、懸命に歩み続けてこられた被災者の皆さまの努力ならびに関係者の皆さまの力を支えにより、南阿蘇村は復興への道を歩んでまいりました。震災の記録を風化させることなく、その教訓を次世代へ継承していくため、10年の節目に本紙を発行いたしました。



1 熊本地震直後の阿蘇大橋周辺 2 運休を余儀なくされた南阿蘇鉄道 3 敷地内に亀裂が入った旧東海大学阿蘇キャンパス 4 大きな被害を受けた村道柵の木・立野線 5 南阿蘇村陽ノ丘みんなの家(集会所)。現在は移転し、コミュニティの休憩施設として活用中 6 長陽運動公園に建てられた応急仮設住宅

令和元年 9月14日
依山トンネル全線開通 11



令和2年 3月18日
村道喜多〜垂玉線全線開通

令和2年 8月8日
JR豊肥本線全線開通

令和3年 3月7日
新阿蘇大橋開通 14



令和4年 3月11日
阿蘇長陽大橋開通 17



令和5年 3月31日
立野交流施設落成 18



平成28年 4月14日
熊本地震発生(前震)

平成28年 4月16日
本震発生

平成28年 4月26日
保育園再開(9時〜15時)

平成28年 5月9日
小中学校再開 7

平成28年 5月19日
天皇后両陛下下訪問 8

平成28年 7月31日
南阿蘇鉄道部分運転再開

平成28年 11月6日
村内全避難所閉鎖

平成29年 4月16日
熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式 9

平成29年 8月31日
立野・新所・立野駅区断水解消(東京エレフトロン九州による井戸の設置により)

平成29年 10月30日
立野地域の長期避難世帯解除

平成31年 2月15日
村内最初の災害公営住宅(下西原第1回地)落成 10



令和2年 3月4日
南阿蘇村復興公園(防災公園)落成 12



令和2年 10月3日
国道57号開通 13



令和3年 5月6日
東京五輪聖火リレー聖火が新阿蘇大橋を渡る 15



令和3年 10月9日
ONE PIECE 熊本復興プロジェクトロビン像除幕(旧東海大学阿蘇キャンパス) 16



令和5年 7月15日
南阿蘇鉄道全線運転再開 19
熊本地震災ミニシアムKOOKUオープン 20

9つの震災遺構

- 立野地区犀角山周辺の地表地震断層
- 黒川地区の地表地震断層
- 床瀬川橋
- 崩落した阿蘇大橋の橋げた
- 阿蘇ファームランド地下通路
- 阿蘇中央火口丘群の表層崩壊(地図外)
- 高野台大規模地すべり
- 数鹿流崩れ(大規模山腹崩壊)
- 旧東海大学 阿蘇キャンパス

